

の加害拒否を非難す。

尚又往年 籍白邊を別々の事情を述べ、且つ今日に到つては、其の分別が誤り行つておつた事を表明し、不利な行動の如何に防衛階級に不利なるかを詳述し、進んで防衛隊本部に加盟し、全的戦線統一の必要を高揚する所があつた。

△加藤勤十（米田の為に退任す）

（要旨）「静本氏は假定被るべきに臨したるを逃つた、即ち若し、クラブ及対協の陣中では、担割の中に其の責を遂げなければならぬ。クラブに横米をこぼさぬと云ふは、自ら責任をなす意図を構成範囲の内に認むべきではない。去る此の点、静本氏に就いてあつた、為筆をこぼす事を望む。」

△ 静本恒治

「加藤氏の言はるべき事とは、等しい。」

△ 岡本武吉（クラブ及対協）

（要旨）「本部幹部のクラブに対する答弁が如何に無理なものであるか、其の答弁、語句が支離滅裂に如何等補正すべきものなき事を大衆の前に暴露し、（中略）本部の幹部は、クラブ問題が起るや、東京聯合会内に

向つては、右隠しに隠し、秘密裡に談を進め、

即ち本部は従来諸問題に就き、東京聯合会の責任を専らに報告相談し、そのものである。然るにクラブ問題に就いては、全然黙知せしめられた。

（中略）

大隈に於て、命権し、中央委員会、上条、菊川、西、大隈、大矢、山田、山田等の幹部に、東京地方聯合